

病院で働く 医療のプロフェッショナル

病院では、治療を行う医師や看護師をはじめ、さまざまな職種
のスタッフが働いています。その多くは専門性の高いスキルや知識
が必要で、国が認める国家資格を有していなければいけない職
種がほとんどです。日進月歩の現代医療に携わる仕事であるため
に、常に専門知識を磨く努力をする必要があり、高度な専門技術
に加えて、コミュニケーションスキルや人間性なども求められま
す。また、一人の患者さんに複数の医療スタッフが連携して、治
療やケアを行う「チーム医療」にも取り組んでいます。

検査科の仕事について

Interview

～臨床検査技師・落合 陽美 (3年目)～



臨床検査技師という職業を選んだきっかけは？

もともと医療系の職業に就きたいと思っていました。高校生のとき検査のプロフェッショナルという新聞記事を読み「臨床検査技師」という職業を知り、調べていくうちに血液検査だけでなく幅広い検査を行うことが分かり興味を持ちました。また、雲南市立病院での体験セミナーにも参加し、臨床検査技師という存在を知っていたのがきっかけです。そして病院や大学の見学に行くうちにますます検査技師になりたいと思うようになり、大学へ入学しました。

雲南市立病院で働こうと思ったきっかけは？

小さい頃から地域の方々に見守られて育ってきました。そんな雲南市の病院で働くことで地域に恩返しをしたいと思ったことがきっかけです。また、中学・高校生での医療現場体験のときの印象もあり、ご縁を感じ働こうと思いました。

現在の仕事についてお聞かせください。 どんな仕事をしていますか？

主に血液や尿などを扱う検体検査をしています。外来や病棟から提出された検体の検査を行い、現場に報告しています。その他には心電図検査や聴力検査を行っています。

雲南市立病院で働いてみての感想は？

検査科のスタッフはとても雰囲気良く、質問や相談などがしやすいです。

また、他職種の方とも話やすく、患者さんとも地元の言葉でお話できることが嬉しいです。顔も覚えてもらい、みんなから「ありがとう」と言われることがやりがいになっています。



将来どのような臨床検査技師になりたいと 思っていますか？将来の目標は？

まずは今できる検査をより正確にできるようにし、患者さんに安心して検査を受けてもらえるような検査技師になりたいです。大学では神経検査の研究をしていたので、将来は脳波などの神経系の検査に興味があるのでその分野も勉強し検査できるようになりたいです。

臨床検査技師の仕事のやりがいを教えてください。

自分の報告した検査結果が診断や治療の手助けとなれたときはやりがいを感じます。また、実際に患者さんと接する機会は少ないですが心電図検査をした際など感謝の言葉をいただいたときはとても嬉しいです。



雲南病院だより

新任医師 紹介



地域ケア科 医員
坂口 公太

沖縄県からまいりました。
医師3年目の坂口公太と申します。
出身は和歌山県で畑が見られるほどの田舎で育ちました。
今回約4カ月の研修で、雲南市立病院の地域ケアなどを楽しく学びたいと考えています。
明るく元気に取り組みますので、よろしくお願いします。

新任医師 歓迎会



泌尿器科・井上圭太医師



産婦人科・今村加代医師



整形外科・佐藤匡哉医師



5月18日(金)、大東地域交流センターで「がんばれ雲南病院市民の会」と「雲南病院ボランティアの会」で「ご主人」の主催により泌尿器科・井上圭太医師、産婦人科・今村加代医師、整形外科・佐藤匡哉医師の歓迎会が行われました。

この歓迎会は、新たに着任された医師へ、住民からの歓迎の気持ちを伝え、多くの住民と着任した医師が顔を合わせてふれあい、話し合い、交流し、これからこの地域に溶け込みやすい関係をつくっていく場となることを目的に昨年からの開催されています。

歓迎会には行政、病院、訪問看護ステーション「コミケア」からも参加があり、総勢53人の賑やかな歓迎会となりました。

3人の医師からの着任のあいさつでは、これからどのような医療を提供していくのか、意気込みや、それぞれ自分の思いを述べました。

参加されたごっ人の方からは、「昨年に続いて、また良い先生が来てくれた、このまま以前のように先生の人数が増えてくれたら安心できる」と話しておられたのが印象的でした。



糖尿病は、予備群も含めると5人に1人いるといわれています。厚生労働省の調査においても毎回過去最高患者数を更新するほど、年々増加傾向にあります。

また、血糖が高い状態が続くことでさまざまな合併症を引き起こし、命を脅かすことが多い病気でもあります。しかし、糖尿病は食事や運動など生活に気をつけ血糖をコントロールすることで合併症を予防することも可能です。合併症を予防するためにはどのようなことに気をつければ良いのか。日々の暮らしにおける血糖コントロールのコツをお話しします。

日 時: 7月26日(木) 14時~16時

場 所: 大東地域交流センター

内 容: 講義「糖尿病合併症予防について」 講師 えんどうたけし 遠藤健史内科医師
管理栄養士、薬剤師によるワンポイントアドバイス など
希望者には血圧測定、血糖測定をします。

参加費: 無料

予約受付: 7月19日(木) まで

- 第2回目▶時期: 10月 場所: 三刀屋町
- 第3回目▶時期: 12月 場所: 加茂町
- 第4回目▶時期: 3月 場所: 雲南市役所

認知症と糖尿病との関係についてもお話しします。



第2~4回目の内容の詳細については、後日チラシや告知放送などでお知らせします。糖尿病教室に関しては健康管理センター保健推進課【☎0854-47-7510】へ問い合わせください。

院内サロンふれ愛♥

7. 8. 9月の開催日(毎月第2・第4金曜日)

7月13日(金)・27日(金)

8月10日(金)・24日(金)

9月14日(金)・28日(金)

時 間: 13時30分~15時30分

場 所: 市立病院 中央棟2階 検診・人間ドック室

問い合わせ:

市立病院 健康管理センター
☎0854-47-7510

院内サロンとは:
病気についての不安を抱える患者さん・ご家族の交流の場であり情報交換・学習の場です。
参加費は必要ありません。どなたでも自由に参加できるサロンです。



新本館棟 紹介

検査技術科編

検査科はこの度の新本館棟への移転で、これまで3ヵ所に分かれていた検体検査室を1ヵ所にまとめることができました。心電図や超音波検査などは生理検査室として、血液や尿など体から採取される検体は採血室の隣に検体検査室としてスタートしました。始めてみると想像だけでは思いつかないメリットやデメリットがありましたが、すべてがメリットとなるようスタッフ一人ひとりが意見を出し合いながら、現在も改善に向けて取り組んでいます。ほとんどの検査装置はこれまで使用していたものですが、生化学分析装置と尿検査装置を移転に合わせて更新しましたので紹介します。

生化学分析装置は、主に体内の化学的成分、例えばナトリウムやカリウムなどのミネラル、糖やタンパク、酵素などを測定します。今回の更新で装置のサイズはコンパクトになりましたが、機能や性能は向上しました。測定項目を増やすことも可能です。また、試薬の使い勝手が良くなったため、試薬を無駄なく使い切ることができるようになりました。より正確な検査結果を得るには試薬管理がとても大切なため、業務上はもちろん費用面でも助かっています。



尿分析装置は、尿中の糖やタンパク、潜血などを測定します。試薬管理が簡便になり、装置や試薬の精度管理を毎日することでより正確な結果報告ができます。



臨床検査技師は患者さんの検査のほかに、装置や試薬を正しく使い、その精度を毎日管理することで正確な検査結果を診療の場に提供し、治療の一端を担っています。



他に病理検査として手術や内視鏡で採取された組織を顕微鏡で診断するための標本を作成しています。組織が大きい場合は標本のサイズに切り出しますが、切り出す前の組織の写真撮影や切り出し作業ができる換気システムを整えた部屋を新たに設置しました。これにより、病理組織診断の結果をこれまでよりも1~2週間早く報告できるようになりました。



また、心電図を始めとするすべての生理検査もシステムを導入することで、電子カルテで確認することができるようになり、記録紙を貼ってお渡しする手間もなくなりました。新病院では「生理検査室」と表示された場所で、「心電図」「血圧脈波」「聴力検査」「脳波」「筋電図」「超音波検査」などを行っています。

新築移転で、検査科スタッフも慣れないうちにご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、市民の皆さまより意見をいただきながらより良い検査科となるようこれからも頑張りますので、よろしくお願いいたします。